

# STAM Science and Technology of Advanced Materials

第 62 回応用物理学会春季学術講演会 ランチョンセミナー：STAM 誌が注目する研究領域

## マテリアルズゲノム—世界動向と日本

**日時** 3月12日(木) 12:15 - 13:00

**会場** B6 (6B-106, 東海大学 6号館 1階)

**主催**



独立行政法人 物質・材料研究機構  
National Institute for Materials Science



IOP Publishing

参加方法等詳細は ▶ <http://meeting.jsap.or.jp/luncheon.html>

2011年6月に発表された米国大統領イニシアチブの一つ「マテリアルズゲノムイニシアチブ」では、材料開発のスピードアップを達成すべく、材料研究開発に用いられる、計算機シミュレーション、実験的手法、およびデータをツールとしてそれらの高度化をはかることが一つの目標となっている。このことを背景とし、ハイスループット第一原理計算、ハイスループット材料合成・分析、マルチスケールモデリング、材料データベースなどの活動に注目が集まっている。これらの研究活動は、コンピュータによる系統的かつ高速な情報処理によって、多種多様かつ大量のデータを効果的に利用する「データ活用型研究」を包含することが特徴であり、また狙い所でもある。講演では、こうした研究活動の俯瞰の試みについて報告し、将来の可能性について議論したい。

**司会：目 義雄 / STAM 編集副委員長 / 物質・材料研究機構先端材料プロセスユニット長**

**12:15** 編集委員長挨拶 (吉田 豊信 / 物質・材料研究機構フェロー)

**12:20** STAM Updates (山口 周 / STAM 編集副委員長 / 東京大学教授)

**12:25** 講演『マテリアルズゲノム—世界動向と日本』  
(門平 卓也 / 物質・材料研究機構調査分析室)

**12:50** 質疑応答

### 講演者 / 門平 卓也

独立行政法人物質・材料研究機構調査分析室主任エンジニア。  
2007年2月にNIMS入所後、研究企画業務に従事。近年、米国マテリアルズゲノムイニシアチブを端緒として活発化するデータを活用する材料研究に関して、海外動向調査を継続的に進めている。NIMSで連続開催された理事長主催勉強会シリーズ「マテリアルズ・インフォマティクス」の世話人。

